



子ども・子育て支援会議における委員からの御意見①



■ 子育ての悩みや不安・相談について

- 同じ悩みをもつ保護者同士が悩みごとを相談する場所があれば良い。
- 子育てに対する不安が少しでも軽くなるよう、出産や育児未経験者には、保育体験や育児の基本を学べる場を積極的に提供している。
- 妊娠期からの母親支援や相談体制の強化など、市町が実施する好事例事業の横展開が重要。

■ 子育ての負担や子育て当事者への視点について

- 子育ての負担ばかりが報道されがちだが、子育ての楽しさをもっと伝え、楽しむ保護者が増えてほしい。
- 母親の自己肯定感が低いと子どもにも影響が及ぶため、親の支援も重視し、自己肯定感を高める関わりが重要。
- 仕事と子育ての両立は難しく、自己肯定感の低下も感じる。制度の分かりやすい周知や、みんなで子育てを支える社会の実現が望まれる。
- この10年で教員の採用や育児休業制度が充実し、男女ともに育児休業取得が当たり前になってきている。
- 高校や大学、メディアなどで夫婦協力の重要性を伝えることで、仕事を諦めなくても子どもを持てるという選択肢が広がる。

■ 経済的支援の重要性について

- 子どもを持つ障壁として金銭的負担が多く挙げられており、初任給だけでなく、生活費が負担となる年齢（35歳くらい）のところまで、賃金カーブ全体の引き上げが必要。
- 家庭の経済状況によって子どもの将来の選択肢が大きく左右されるため、早期から支援を強化し、安定した生活基盤の確保が重要。
- 経済的理由で進学の実現が狭まる現状も課題。
- 離婚後の母親は経済的に厳しく、法改正による養育費制度の周知や支援を県として積極的に進めるべき。



子ども・子育て支援会議における委員からの御意見②



■ コミュニケーションや体験活動、SNSとの関わりについて

- こどもは自分の気持ちを表現するのが苦手になっており、自己肯定感を育み、自分の個性を大切にできるかが課題。
- 結婚や子育てには幼少期からのコミュニケーション能力が重要で、それが人間関係や結婚にも良い影響を与える。
- 若者にはSNSで子育てのネガティブな情報ばかり流れ、見えている景色が違う現状が課題。
- インターネットやゲームなどが生活の中心となっており、コミュニケーション力が不足している。
- SNSの普及で多様な価値観と繋がる一方、リアルな場で本音を伝える難しさがあり、学校等において、個性や挑戦することを認め合える環境づくりが重要。
- SNS等の影響で結婚や出産への希望が薄れているこども・若者が増えており、リアルな体験が重要。
- こども・若者が、子育て支援などの現場体験を通じて、子育て当事者から、リアルな声を聞く機会を増やす取組みも必要。

■ こどもの居場所について

- こどもにとって、学校内の相談室は、誰にも評価されず安心できる居場所として重要。
- 対人関係を通じた安心できる居場所を丁寧に知らせていくことが必要。

■ 多様な支援の選択肢や支援のつながりについて

- 様々な状況を抱えたこども・若者たち一人ひとりに向き合い支援していくことが必要であるが、そこにつながるまでの支援の選択肢が少なすぎることも課題ではないか。
- こども・若者への支援は、一つのチームとしてつながっていくことが重要。また、こども・若者の人生は長く、課題は続いていて、そのことがライフデザインを描くことを難しくしているのではないかという課題感も感じている。

★ 子ども・子育て支援会議における委員からの御意見③



■ 困難を抱える状況にあるこどもについて

- ・ 不登校により人生を諦めてしまう子どもがいる現状を踏まえ、諦めずに済む道筋や社会のあり方を一緒に考えていきたい。
- ・ どこにも所属しないこどもや若者の見守りや支援が手薄なことが気になり。
- ・ 犯罪を犯した若者も計画の対象に含め、支援や対応について検討が必要。
- ・ 大人の生活困窮や複雑な課題はこども時代から始まっていることが多く、早期発見と地域全体での「地域共生社会」づくりが重要。

■ こどもの声をきくことや意見表明について

- ・ こどもが自由に意見を言えるには、大人が真剣に向き合う姿勢や、何を言っても受け止めてもらえる環境づくりが大切。
- ・ こどもが言うことすべて言うとおりにする必要はないが、学校などでこどもの声を吸い上げ、応答する仕組みづくりが必要。
- ・ こどもの声を聞くことは、まず自分の家庭で親子の信頼関係を築くことから始まり、一家庭ごとの小さなコミュニケーションが積み重なれば、やがて地域全体でこどもを中心に考える意識が広がっていく。
- ・ こどもの声を聞くには信頼関係が必要で、大学生の参加やグループでの対話などを通じて、こどもの思いを引き出し、より実効性ある支援メニューにつなげたい。

■ こども・若者に視点を置いた計画策定への想いについて

- ・ こども・若者が将来に希望を持ってない現状が、家庭をもつことや子育てへの不安につながり、「少子化」の背景になっているのではないかと。
- ・ こども・若者が「自分も幸せになれる」と前向きに感じられる価値観や意識を県民全体に広げていきたい。
- ・ こども・若者の最善の利益を第一に、権利が認められ、一人ひとりの幸せにつながる施策を、共に考え実現したい。